



A群溶血性レンサ球菌の食中毒について

A群溶血性レンサ球菌は、もともと感染症の分野で咽頭炎、扁桃炎、しょう紅熱や急性糸球体腎炎、敗血症等を引き起こす病原性細菌の一つです。近年、このようなレンサ球菌が食べ物を介して口から入り、発熱や頭痛、喉の痛み、悪寒等の呼吸器系の症状が出て食中毒となることが1969年7月、埼玉県内の学校給食で起きた焼きそばが原因の食中毒(患者数69人)発生以降、一般的に知られるようになりました。特に1997年5月、福岡市内で開催された国際会議の際、発生した943名に及ぶ食中毒事例は有名です。食中毒と言えば普通、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢等の消化器症状が主ですから、症状がだいたい異なります。最近、起きた一事例から予防対策を考えていきましょう。

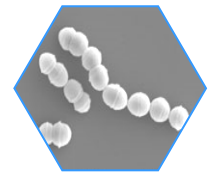
A群溶血性レンサ球菌による食中毒事件

2017年3月29日、岩手県盛岡市は同市内の飲食店「GR」の弁当を食べた20～60才代の男女33人が食中毒症状を発したとして同店を同日から3日間の営業停止処分とした。患者は何れも発熱や喉の痛みを訴え複数の患者と弁当を作った複数の調理従事者からA群溶血性レンサ球菌が検出された。『河北新報3/30』より抜粋)

また、本事件を担当した盛岡保健所の最終報告(患者数46人)によると、潜伏期は48時間以内と回答した人が最も多く、症状としては咽頭痛が44人、発熱が34人、悪寒が24人、倦怠感が21人、頭痛が15人と下痢がわずかに1人という状況であった。そして発生原因として調理と盛付け担当者の4人のうち3人が本菌に感染、マスクや手袋の着用が不適切であったため、唾液中の本菌が飛沫や手指を介し食品に移行したとの事であった。

□■A群溶血性レンサ球菌の特徴■□

溶血性レンサ球菌は、血清型に基づいてA～V(I,Jを除く)の20群に分類され、このうち主にヒトの疾患と関係があるのは、A,B,C,G群でA群に属するものがA群溶血性レンサ球菌 (*Streptococcus Pyogenes*)といえます。性状は通性嫌気性のグラム陽性球菌で、長い連鎖状を呈し、発育温度は、10-15～40-45℃(至適温度は37℃)、発育pHは7です。



A群溶血性レンサ球菌による一般的な感染症は急性の咽頭炎や扁桃炎で無治療の場合は中耳炎、扁桃周囲膿瘍、化膿性頸部リンパ節炎等の化膿性合併症に進展、さらに急性糸球体腎炎や敗血症にまで至ることもあります。

感染形態は主に飛沫感染で、保菌者の唾液、鼻汁等が飛散することで鼻、咽喉・咽腔から侵入しますが、食品や飲料水を介して感染もあります。なお、本菌は便からは菌が検出されないため、細菌検査にあたっては咽頭をぬぐった液を採取する必要があります。

エチオピア風シチュー(卵を含む)が原因と推測された患者由来のG群溶血性レンサ球菌(*Streptococcus dysgalactiae subsp equisimillis*)による食品中での増殖実験の結果では、約10個の菌が、室温(約25℃)に24時間放置後、卵白で104個、卵黄では105個に増加したという報告があります『東京都微生物検査情報 第20巻5号』。

溶血性レンサ球菌による食中毒は主にA群溶血性レンサ球菌が原因となりますが、G群溶血性レンサ球菌が原因となった食中毒が上記の他に、2016年9月9日、大阪府大東市内の学校【寮、単独給食施設】で喫食者229人中140人が咽頭痛、発熱、頭痛等の症状を呈し、原因食品がブロッコリーサラダのオカ力和えだと特定できた食中毒が報告されています『日本食品微生物学会雑誌 2019・36巻 2号』。

□■予防のポイント・まとめ■□

調理従事者は、下記①～④の項目に注意して食品の取り扱いをしましょう。

①咽頭痛や咳などがあるときは、調理作業に従事しない。どうしても従事する場合は、マスクや手袋を着用し、直接食品に触れる作業はしない。

②理場に入る際や作業中の手洗いを適宜、適切に行うこと。

③飛沫感染するので、調理の際には必ずマスクを着用し、むだなお喋りはつしむ。

④仕出し弁当や卵加工品や焼きそばなどが原因食品になることが多く、だし巻き卵、タマゴサンド、卵サラダ、焼きそば等は調理後速やかに提供するか、やむなく保管する場合は必ず冷蔵する。



登録衛生検査所
株式会社 中央微生物検査所
環境サービス事業部

<http://www.chubi.co.jp/>
E-mail shoku@chubi.co.jp

本 社
〒536-0008 大阪市城東区関目5丁目22番23号
TEL.(06)6939-1044
FAX.06-6939-2350

東京営業所
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目3番10号コスモタワービル10階
TEL.(03)5472-7551
FAX.03-5472-7552